

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1 足立区役所
青少年課 青少年事業係

TEL 03-3880-5275 <http://www.a-shorenkyo.jp>

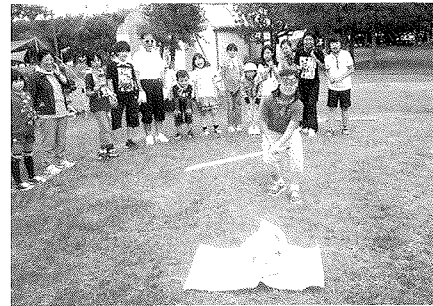
発行人 野辺 陽子

編集 調査広報部

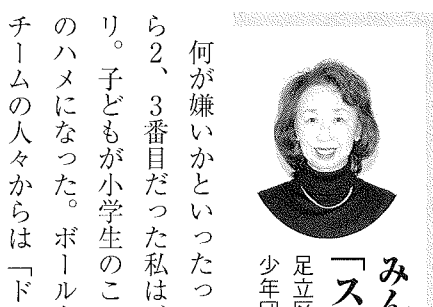
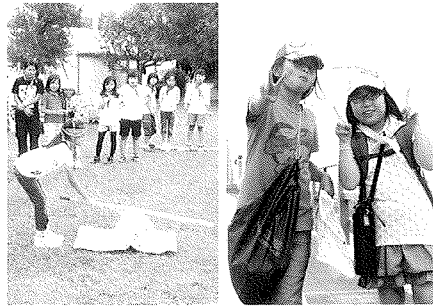
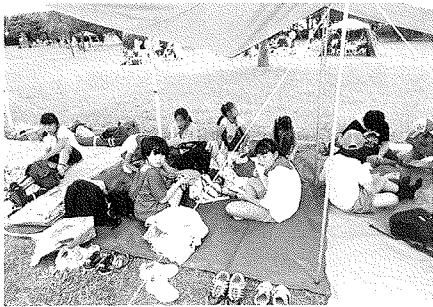
大林 市川 小野田 高澤

高橋 手塚 田中 鈴木

川下 堀内 山岸 平石



笑顔いっぱいの 子どもたち



足立区
少年団体連合協議会会長

野辺 陽子

みんなに伝えたい
「スポーツって楽しい！」

何が嫌いかといったって徒競走ほど嫌いなものはない。後ろから2、3番目だった私は、背の高い女子と走り、結果はいつもビリ。子どもが小学生のころPTAのバレー大会などがあり、出場のハメになった。ボールを取ろうとしてもミスをする。そんな時チームの人々からは「ドンマイ！」などと励ましの声が飛ぶ。しかし私には「お前のせいだぞ！」と変換されて聞こえる。先日スポーツ推進委員会のビーチボールバレーの交流会に出た時のことである。最初の対戦相手は葛飾の委員会チーム。私とは言えば、顔面レシーブ、おしりでトスなど珍プレーの連続ではあったが、結果はなかなかのもので、2セットとも少連協チームがとり、みごと勝者となった。その後の試合は予想通りで、4試合で

1勝2敗1引分け。笑いのある楽しいゲームだった。今までの数十年が口惜しくも感じられる。スポーツ嫌いの子どもに何とか伝えたい「へただって、勝てなくたっていいんだよ。皆と力を合わせることであればそれでいい」と。

スポーツを楽しみ、それが子どもたちの体軀・仲間意識の向上につながれば、こんないいことはない。

平成二十四年度——少連協総会開催される

六月二日(土)午後四時より、足立区役所十二階会議室において平成二十四年度足立区少年団体連合協議会の総会が開催されました。

大林副会長の司会進行で始まり、野辺会長の挨拶がありました。

総会は、議長に加藤副会長、書記に小野田氏が選出され、平成二十三年度事業報告、事務局各部活動報告、決算報告、平成二十四年度顧問・相談役(案)、活動方針(案)、事業計画(案)、予算(案)、

少連協規約改正(案)など十の議案が滞りなく可決、承認されました。

その後、野辺会長より常任理事を退任された方に、感謝状を贈呈いたしました。また、新任常任理事の紹介もありました。

【退任常任理事】

第八地少協 浅香 一浩

【新任常任理事】

第八地少協 鹿浜 泰生
江北地少協 橋本 博



▲平成 24 年度少連協総会

鹿浜地少協 林 俊二
最後に今年度の「がんばる地少協」助成金交付団体の報告がありました。

【がんばる地少協助成事業一覧】

① 蒲原地少協 お泊りキャンプ

② 中川地少協 子ども研修会

③ 第五地少協 デイキャンプ

④ 新田地少協 野外キャンプ体験

⑤ 江南地少協 チャイルドタウン

⑥ 保塚地少協 秋のスポーツフェスティバル

⑦ 江北地少協 自然体験活動ネイチャーゲーム

⑧ 江北・上沼田合同事業

ペットボトルロケット大会

鈴木副会長の閉会の辞ですべての議事が終了しました。

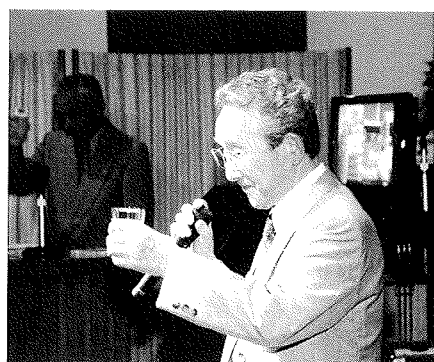
引き続き五時三十分より十四階のレストラン「ビガール」に会場を移し、懇親会が開催されました。

元井総務部長の司会で始まり、

区歌「わがまち足立」を馬場常任理事の指揮で斉唱した後、野辺会長の挨拶、ご来賓の青木光夫教育長、渡辺ひであき区協議会議長にご挨拶をいただき、ご来賓の紹介、有馬康二町会・自治会連合会会長の乾杯へと進みました。

乾杯後、各テーブルは、和やかな懇親の場へと変わりました。

今後も、参加者ひとりひとりの



▲有馬康二町・自連会長



▲青木光夫教育長



足立区少年団体連合協議会平成24年度総会

▲和やかな懇親会会場▲

活動が、地域の子どもの健全育成と少連協の活性化に繋がっているように、みんなで力をあわせてがんばって、足立区を盛り上げていきましょう。

● 退任あいさつ 浅香一浩
常任理事の退任にあたって

この度、平成二十三年度をもって、少連協常任理事を退任することになりました。

私が所属する第八地少協の会長任期は二年であり、わずかな在任期間ではありましたが、少連協の皆様方には格段のご配慮をいただき、おかげさまで楽しく二年間を過ごすことができました。

一番の思い出は、福島県相馬市の子ども達に文房具類をお送りしたことです。育成会や地域の皆様方にもお声がけをしたところ、軽トラック一台分の荷物が集まりました。たいへんな中にも嬉しい気持ちでいっぱい、改めてご協力いただいた皆さんの熱い思いが感じとれました。

後日、相馬市の子ども達からお礼のお手紙が届き、子ども達の純粋な感謝の気持ちに深く感銘を受

けました。

常任理事は退任となりますが、これからも引き続き、地域の子ども達と関わりをもつて参ります。

最後になりますが、これからも少連協の役員、常任理事の皆様方のご活躍と更なる発展を祈念申し上げ、退任の言葉とさせていただきます。

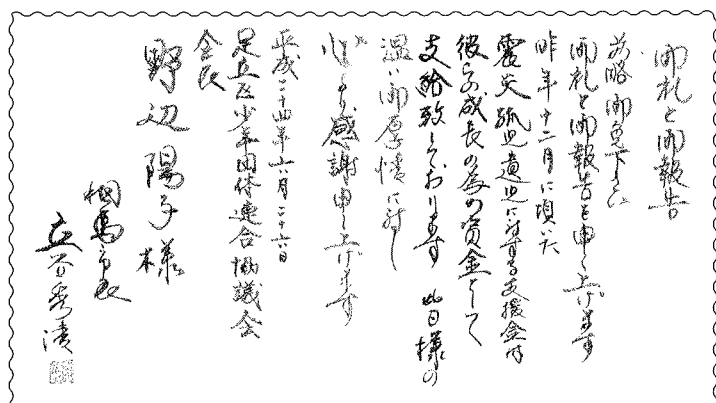
● 就任あいさつ 林 俊二
よく学び、よく遊べ

今年から地少協の会長に就任いたしました。昭和四十四年に設立され、私で七代目となり、改めて責任の重さを痛感しております。

昔から「よく学び、よく遊べ」といわれるように、遊びは子ども達にとって勉強と同じくらい大切なものと考えられ、遊びを通して多くの能力を育んでいくものと思います。友だちと走り回ったり、取っ組み合ったりで体力を養い、また子ども同士の心と心のおつきり合いの中で、協調性や思いやりの心など様々な社会的能力が育まれます。

少連協では「宿泊キャンプ・わくわく遊び塾」という自然の中で

立谷相馬市長からの震災孤児遺児に対する支援金の御礼状



の遊びや生活体験を学べる行事を行っているので、ぜひ、自分自身も参加して子ども達と多くのことを学び、遊び、「明るく・楽しく・元気よく」一緒にチャレンジしていきたいと思えます。

今後は、地域全体で子ども達を育てていくという環境が広がっていくことを願って就任のあいさつとさせていただきます。

「危ない」が解る子を育てよう 子ども会育成者セミナー

七月八日(日)第二十二回子ども会育成者セミナーを「子どもの安全安心」をテーマに開催しました。一五〇人以上の参加者を得て、足立区内の子ども会すみずみに、私たちが子どもの安全を守るという、意識が改めて広がった研修でした。

足立区では、平成二十一年度より足立区子どもの安全安心プロジェクトがスタートしました。少連協では、検討委員会に区内の他の健全育成団体とともに参加、検討を重ねてきました。このプロジェクトから、子どもの自己防衛力を



▲劇団 An・An のワークショッププログラム

高めるワークショッププログラムができて上がり、平成二十三年一月に区庁舎ホールでお披露目会が実施され、多くの足立区で子どもに関わる大人が参加、子どもの安全安心に新たなステップアップを果たしました。

少連協では、本年度の新年会でワークショッププログラムを参加者に観ていただき好評を得ました。このような、経過をへて今回の育成者セミナーの開催となりました。小・中学校や保育園・幼稚園で開催されるワークショッププログラムを観る機会の多い子どもたちが、



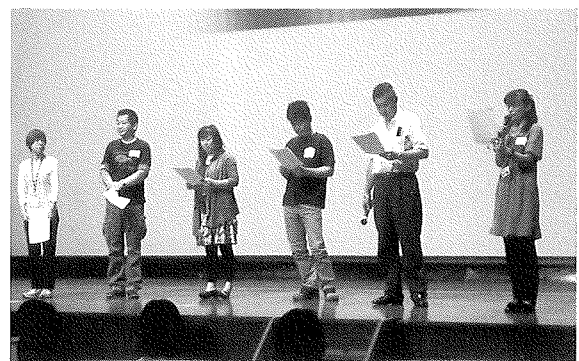
▲11のグループに分かれて練習



▲グループ発表

知ってる近所のおじさん、おばさんが伝える安全安心はより深まるのではないのでしょうか。

当日は、講師にプロジェクトに当初から関わっている、全国子ども会連合会専門委員、劇団真夏座俳優、羽藤雄次氏となり、劇団 An・An のワークショッププログラムを観ていただきました。その後十一のグループに分かれ、実際にワークショッププログラム演劇の練習を行い、グループ発表をして、その中からいくつかのグループが全体の前で披露しました。参加者が、演劇に夢中になり、真に



▲全体発表

迫るものがありました。グループから、感想意見として、子ども会の活動の中で具体的にどのように活用するか、さまざま提案・アイデアが出されました。夏休みラジオ体操の時に観てもらおう。子ども会の行事のときに行う。バスレクのひとつとして行うなど、たくさん出されました。

資料として、配布されたワークショップ実施マニュアルは部数が足りなくなるぐらい参加者を得て、足立区全体に子どもの安全安心の種が蒔かれたのではないのでしょうか。

なすかし 那須甲子野外活動 (三泊四日)

七月十四～十六日の三日間、那須甲子青少年自然の家へ子ども六十七名、高校生四名(パワーキッズ)、大人延べ四十七名が大型バス二台で行ってきました。

第十四地少協 泉 和代

一日目

午前八時にファミリー広場を出発。子ども達は九班に分かれ、これから二泊三日を過ごします。各自帽子、名札、バンダナ(以降三点セット)を絶えず身に付けて行動します。宿舎ではこの三点セットがとても役にたち、たくさんの団体のいるではバンダナは大活躍です。子ども達は集合のたびに三点セットの確認をしてからの行動になります。十一時三十分頃に那須甲子の森に到着。各自、自宅から持って来たお弁当を野外で食べた後、部屋に入ります。ベッドメイキング後、少し早めの夕飯作り。野外炊飯のカレーライス作り。出かけます。かまどに火をおこし、カレーとお米を炊いていきます。デザートにはスイカ。みんな笑顔で美味しくいただきました。夕方には肝だめし。大人達は子どもに気づかれないようにコソコ

ソとオバケの準備。みんな大泣きでゴール、かとおもいきや、中には大笑いの子も達も…。部屋に戻ると家族にハガキを書いて二日目の朝にはポストに投函。カレーの時にたくさん炊いておいたご飯でおにぎりを夜食に、そして一日が終わります。

二日目

那須甲子に来て初めての食堂での食事。食事はすべてバイキング、みんな好きな物をたくさんとってモリモリ食べています。午前中は追跡ハイク。十カ所のチェックポイントをクリアしていきます。ゴールではペットボトルロケットを飛ばしたり、水鉄砲で遊んだり、いつでも元氣いっぱいの子も達です。午後は工作、今年は焼き板作りです。個性豊かに素敵な作品ができて上がりました。夜にはキャンプファイヤー。歌ったり、踊ったり、班ごとに出し物をしたり、

あつと言う間の二時間でした。部屋に戻ってもパワフルな子ども達は夜食の菓子パンを食べて、今日の目を終わります。

三日目

帰り支度が終わった子ども達はプレイホールへ移動し、レクリエーション担当の子ども達がリーダーになって広いホールを走り回って、汗だくになって遊びます。途中、ゼリーのおやつを食べると、大人はみんなホールから出てほしいと言われ、しばし廊下で待機、何分後によばれてホールに入ると、舞台上に並んだ子ども達から、九人の班長から涙が出るほどの嬉しい言葉をもらい、手話をまじえた歌のプレゼントをしてくれました。とても感動的な時間でした。

三日間、盛りだくさんの行事で、疲れたことと思います。他校のお友だち達がたくさんいる中、気づかれもしたことでしよう。でもそれ以上に楽しい思い出になり、成長もしたことと思います。そして、私達も大変だったけど、やっぱり行って良かった、と思える三日間でした。



キャンプ

● キャンプに参加した感想
すてきな思い出

河野萌音

ジュニアリーダーのキャンプに友達と参加した。私だけ知っている人のいない班になってしまった。でも一人でいたら話しかけてくれた優しい子がいた。この四日間だけで新しい友達ができるなんて、思ってもいなかったから余計にうれしかった。

キャンプでの夕飯作り、いつも何げなく食べていたご飯がこんなに大変だとは思っていなかった。とてもおいしかった。

二日目の登山。つかれたけど頂上からの景色は最高だった。

三日目のキャンプファイヤーでの各班の出し物、私たちの班は成功。他の班もおもしろくてもりあがった。その後、テントを撤収して寝袋で夜空を見上げながら寝た。夏の大三角形があった。

東京ではあまり見えない星がこんなにたくさん、きれいに見えた。すてきな夜空を見上げながら眠りについた。

たくさんの思い出と友達ができ、すてきなすてきな夏でした。

● 送り出した親の感想
成長したかな……

河野千恵

三泊四日のキャンプに少し不安な表情で旅立って行った娘。今日は、テントを皆で張ったりしているんだな、大丈夫かなと行動予定を見ながら心配でした。山登り、暑さでバテていないかな？ 皆に迷惑をかけていなければ良いなど、娘の顔を見るまでは気が気ではありませんでした。

でも帰ってきた娘は真っ黒に日焼けして、なんだかたくましく成長したように見えました。小学校最後の夏休みに貴重な良い経験ができて良かったと思いました。

● キャンプに参加した感想
この経験を生かして

鈴木風太

仲間が皆落選して、ぼくだけでも不安でした。

当日、同じ班の男の子が話しかけてくれて、うれしくてキャンプが楽しみになってきました。ぼくが特にがんばったのは、か

まど作りです。火がつきやすくするために、まきをたてに置き、空気を入れやすくするなど、お兄さんたちがわかりやすく教えてくれました。毎日ご飯作りの時は、かまど担当はぼくになりました。火が熱くて怖かったけど、うれしく

てがんばりました。

ポイントラリーでは、ぼくの班に経験者がいたので、一番早くゴールできてほめられました。

ナイトハイクでは怖かったので、肩を組んで進みました。ケラケラ笑って楽しかったです。

8月1日(水)

Time	プログラム	
4:15	チャレンジスタッフ起床	
4:30	チャレンジ参加者起床・荷物準備	
5:00	チャレンジ朝食(菓子パン・バナナ・ゆで卵・牛乳)	
5:30	スタンダードスタッフ起床	
6:00	スタンダード参加者起床	
	登山の準備付け(チャレンジ)	
6:30	朝のつどい(登山チーム見送り)	
6:45	スタンダード朝食(菓子パン・バナナ・ゆで卵・牛乳)	
	(スタンダード)	(チャレンジ)
	8:30朝プログラム	鍋割山登山
	WANTED(ポイントラリー)	帰着後はシャワー
	昼食(弁当)、午後プログラム	15:30
	キャンプファイヤーの出し物打合せ	課題ラリー
	15:30	
	班別自由プログラム	
16:30	夕食作り(バーベキュー)後片付け	
19:00	スタンダードコースシャワー	
20:00	(スタンダード)	(チャレンジ)
	肝試し	ナイトセッション
	短めのコース	《自分たちでプログラムを始めて実行》
21:00	星空観察・ナイトウォーク・ファイヤーリハ	
21:30	係会議・班会議	
	就寝	
	スタッフ会議	
	スタッフ就寝	

7月31日(火)

Time	プログラム	
7:00	スタッフ集合	
7:45	出発式(島根小学校体育館)	
8:30	西新井発(東武線 太田行)	
10:04	太田着	
10:18	太田発(東武線 伊勢崎行)	
10:43	伊勢崎着	
11:18	伊勢崎発(JR両毛線 高崎行)	
11:32	前橋着	
11:50	臨時バス	
12:30	赤城青少年交流の家到着	
	キャンプ場へ移動	
12:45	入所式(交流の家スタッフによる)	
13:00	昼食(持参弁当)※センター棟周辺、班ごとに荷物移動(スタンダードのみ)	
14:00	(スタンダード)	(チャレンジ)
	キャンプ始めて講座	テント講習会・設営
	◎グループワーク	設営後は、夕食作りまで班ごとにコミュニケーションタイム
	・キャンプ生活の留意点	
	・班ごとにキャンプ目標の設定	
	◎簡単なロープワーク	
	・もやし結び・巻き結び・止め結び ※3つくらい	
15:30	かまどについての説明(現地スタッフ)	
15:45	炊事についての説明(鉈・軍手・服装・飯盒・マッチについて)	
16:00	夕食作り(カレーライス)後片付け	
18:30	(スタンダード)	(チャレンジ)
	18:30~親睦交流会	食事が終わる次第シャワー



▲まきを絶やさないように

このキャンプでお兄さん達と生活すると、いろいろなことを教えてもらえること、仲間と協力すると早くやれるということがわかりました。

これからは、この経験を生かし、自分のことは自分でやり、友達と助けあって何でも挑戦したいと思っています。

●送り出した親の感想
たくましく見えた

鈴木直美

この夏、息子に楽しい思い出を作りつつ、何かを学んで欲しいと思いい、キャンプに応募しました。いつもの仲間に頼ることなく、



▲いただきま〜す！

学校も年齢も違う人達と不慣れな場所での共同生活。きつとひとまわり大きくなって帰ってくると信じ、不安そうに振り返る息子を笑顔で見送りました。

その後、私は日程表を見ながら、今頃夕食作っているかな？ 寝袋でちゃんと眠れているかな？ などと考えて不安な三日間を過ごしました。

迎えに行った時、私の心配をよそに遠くに見えた息子は浅黒く日焼けし、新しくできたのであろう友達と楽しそうに話していました。私を見つけ、手を振ってくれた時はとてもたくましく見えました。帰り道、かまどを担当したこと、

8月2日(木)

Time	プログラム
5:30	スタッフ起床
6:00	参加者起床
6:30	朝のつどい(簡単なゲームや体操)
6:45	朝食(パンセット)
9:00	選択プログラム ・シャボン玉&くるくるコプター(甲本・) ・ネイチャーゲーム(辻村・) ・スラックライン(宮本) ・ダブルダッチ(竹島・菅原) ・火起こし ※火起こし後の焼きジャガイモも担当 ・野外料理(石丸・)
11:30	昼食(野外料理で作ったものを食べる)
13:00	(スタンダード) 水遊び・ネイチャーレク ・ペットボトルロケット ・ネイチャーレクリエーション ・お家様の帰郷にしてもOK ※班で相談して決める 14:30 テント撤収
15:00	シャワー
16:30	夕食作り(豚汁+α) 後片付け
19:30	キャンプファイヤー
21:00	係会議・班会議 チャレンジシャワー
21:30	スタンダード就寝
22:30	全員集合してお話し(キャンプセンターデッキ)
23:00	スタッフ会議 スタッフ就寝

8月3日(金)

Time	プログラム
5:30	スタッフ起床
6:00	参加者起床
6:30	朝のつどい(簡単なゲームや体操)
6:45	朝食(パンセット)
11:00	キャンプ場撤収 ※朝食終了後すぐに ・ゴミ拾い等、テント周辺・キャンプ場周辺の清掃 ・荷物整理、パッキング 終了後は荷物を持って研修室に移動 寄せ書き
11:30	退所式(現地スタッフ) 記念撮影
11:30	昼食(弁当)
12:30	赤城青少年交流の家出発(臨時バス)
13:20	前橋駅発(JR両毛線 小山行)
13:33	伊勢崎着
13:54	伊勢崎発(東武線 太田行)
14:19	太田着
14:24	太田発(東武線 久喜行)
15:25	久喜着
15:26	久喜発(東武線 中央林間行)
16:03	西新井着
16:30	鼻根小学校到着
16:50	解散式・解散

寝袋での寝方を工夫したことなどを自慢げに話してくれました。

何かにチャレンジした後の達成感、仲間と協力し成し遂げる喜びを知り、今まで体験したことのない素敵な思い出ができたことでしょう。

今後、この経験を生かし、何でも責任を持って積極的に参加し、仲間を大切にし、リーダーになれる子になってほしいと思います。

参加させていただいて良かったです。運営スタッフの皆様、諸先輩方、ありがとうございました。

親を育てる

スポーツ少年団本部長

馬場信男

前号の少連協ニュースの巻頭、親の身勝手な子育てについて野田会長が取り上げておられた「子どもを産んでも、その責任を果たさない親の何と多いことか」「犠牲になるのは、いつも子どもたちだ」等々、深刻に読んだ。

目を置かずして、高橋史朗明星大学教授の講演を聞いた。テーマは親学（おやがく）について。今の親には親になるための学習が必要だという提言だ。親が親として育ち、力をつけるような学習をしなければ、ひとかどの親にはなれないケースが多くあるという。

身勝手な親が原因で、子どもたちに生じる悪い事象を考えてみると、幼児虐待・児童虐待、育児放棄、家庭崩壊、学級崩壊、小一プロブレム、いじめに登校拒否と、どんどん出てきた。さらに教授からは衝撃的な事実も数多く紹介された。「北海道の中学生の五分の一が鬱状態」「六カ月以上の引きこもりは七十万人で、その予備軍が百五十万人」。これらに至るに

は、乳児期からの親子のコミュニケーション不足、愛情不足にもあると説く。母乳をあげながらのケータイメールどころか、喫煙しながらの親もいるからなのだ。

愛情不足で育った子どもたちの通う今の小学校は、「新型」学級崩壊なのだそう。従来の学級崩壊は、主に職員の力量不足に原因があると言われていたが、この「新型」は、主任やベテラン教師の教室でも起こっている。

問題の解決に「家族の絆づくりが大切」と教授は言うが、事は簡単に進まない。

石原慎太郎都知事（当時）が「心の東京革命」の中で家庭の大切さを訴え、その行動目標として「家族団欒で食事をする」ことを掲げているのに、東京都福祉局や足立区子ども家庭部は、保育園や幼稚園の長時間預かりを進めている。親子の関わりが、ますます希薄になる施策だ。

最後に、子育てについて教授はわく。①まずは家庭教育で、これが芽生え。②次が学校教育で、花が咲く。③最後に社会教育で、実を結ぶ。我々が担う③については、時代の変化に対応しながら「新し

い親たち」の学習の場としても果たさなければならない、重要な役割があるのだと感じた講演だった。

デイキャンプイン若洲

第五地少協 田中加代

七月二十二日（日）第五地少協としては、八年ぶりのリバイバル事業デイキャンプイン若洲を実施しました。八年前まで鹿沼レクリエーションセンターでの宿泊キャンプを実施していました。参加児童の減少で中断事業となったものをぜひ復活させたいとの思いから本年度再度取り組み始めました。

初めてキャンプに携わるスタッフも多いためジュニアリーダー研修の卒業生限定の参加呼びかけでした。しかし反応は、思いのほか良く、半数以上の十七名の子どもとスタッフ八名で三つのグループに分かれて行動しました。公共交通機関を利用し、切符の購入の仕方、公共のマナーを学びながらゲートブリッジ散策をしました。

残念ながら曇天のために、海から東京タワーとスカイツリーのコラボは、見ることは、できませんでしたが、離着陸のジャンボジェットの大きさを至近距離で体感す



▲有意義な1日でした

ることができました。デザート作成コンテストを含むランチタイムは、ホットドッグ・じゃがバター等の軽食も多いに盛り上がりしました。昼食後、西瓜割りを実施しましたが、このイベントが一番チームの団結がみられ、若洲キャンプの注目を一心に集めました。次年度へのステップアップとして有意義な一日となりました。

編集後記

少連協新年会で安全安心のワークショッププログラムを観て、育成者セミナーで、劇団An・Anと一緒にプログラムを経験したことを各地域で生かしてほしいと思います。（編集者）